

LMI 世界宣教会近藤恵宣教師会計報告 ('09年10月~12月)

		10月	11月	12月
収入	近藤恵宣教師指定	213,500	166,956	409,325
	前月繰越金	1,760,315	1,936,797	2,085,803
	合 計	1,973,815	2,103,753	2,495,128
支出	近藤恵宣教師支援金※	0	0	0
	年金・支える会経費	16,018	1,950	173,570
	帰国準備金※※	0	0	1,000,000
	LMJ事務局費	21,000	16,000	30,000
	次月繰越金	1,936,797	2,085,803	1,291,558
	合 計	1,973,815	2,103,753	2,495,128

※宣教師支援金は必要に応じて随時送金 ※※帰国準備金は別会計に積み立てました

献金者お名前

(教会) 明野キリスト教会、泉キリスト教会、岩井キリスト教会、牛久福音キリスト教会、大泉聖書教会、大磯キリスト教会、かもい聖書教会、川鶴チャペル、自治医大前キリスト教会、下館キリスト教会、湘南ライフタウンキリスト教会、白岡福音キリスト教会、菅生キリスト教会、蓮田キリスト教会、東村山キリスト教会、日立福音キリスト教会、本郷台キリスト教会、前橋キリスト教会、松山聖書教会、水戸下市キリスト教会、宮崎北聖書キリスト教会、武蔵台キリスト福音教会、横浜永谷キリスト教会、横浜緑園キリスト教会、かもい聖書教会立石師支える会

(個人) 赤城二郎、阿部徳子、池田美栄子、池田百合子、井上稲子、大重和樹・香、香川聖恵、国井昭男、倉持芳、小池宏明、沢田陽子、四宮義文・牧子、染矢睦子、高橋洋子、武田香、立石哲・早苗、田中泉、田中美智子、鶴木悠紀子、豊田光子、中井靖子、中村充・みちる、日高誠・幸恵、藤川多嘉子、三浦健治、光畑京子、宮奈登美子、山口勝政・衣子、湯澤邦夫、米谷信雄、渡邊ゆきこ、自治医大前キリスト教会個人、匿名(敬称略) 尊い献金をありがとうございました。

編集後記

恵宣教師は今、試練の中にいます。支える会ははじめ全国の兄弟姉妹がいよいよ熱心に恵宣教師のために祈っています。だれよりも主イエス様が恵宣教師を支えてくださいます。(ひ)

恐れるな。わたしはあなたとともにいる。たじろぐな。わたしがあなたの神だから。わたしはあなたを強め、あなたを助け、わたしの義の右の手で、あなたを守る。(イザヤ41:10)

連絡先: 03-329-0403

栃木県下野市医大前3-7-1
近藤恵宣教師を支える会
(自治医大前キリスト教会内)

Tel&Fax: 0285-44-7564

ホームページ

<http://homepage3.nifty.com/meg/>

E-mail: meg0_02007@yahoo.co.jp

郵便振替払込

口座番号: 00110-1 番号: 91993

加入者名: LMI世界宣教会

近藤恵宣教師ニュースレター NO.11

2010. 2. 28

発行: 近藤恵宣教師を支える会



神様の手のもの

小さなえんぴつ

わたしは神の手の中にある小さな鉛筆のようなものです。神が考え、神が書くのです。鉛筆は何もしません。鉛筆はただ使われるだけです。(マザー・テレサ)



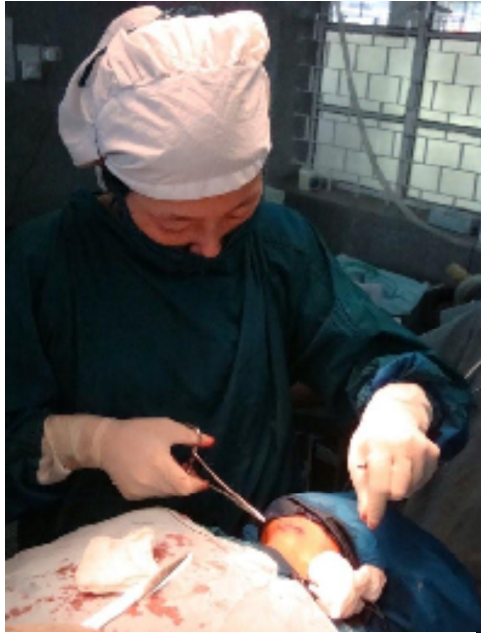
「主がイスラエルの家に約束されたすべての良いことは、一つもたがわず、みな実現した。」(ヨシュア記21:45)

愛する兄弟姉妹のみなさま、お元気でおすごしですか？まだまだ日本では、寒さが続いていることでしょう。ここバングラデシュでは、早くも春のきざしが見えはじめ、13度くらいまで下がっていた気温は20度くらいになり、あたたかい風がこちよく吹いています。12月から1月にかけて、戦いの時を過ごしてきましたが、上記のみことばのように主が約束のものを与えてくださることを信じて、歩んでいます。

あなたは、LAMBに必要な人じゃない

ラムホスピタル
LAMB Hospitalで働き始めて2か月たった12月の中旬、Executive director（事務長）に呼ばれました。そこには、外科医のボブ先生、そしてMedical director（医務課長）もいました。彼らは私の能力に懸念を持っているということでした。大きな理由は、今まで大きな手術をするチャンスがあってもやらなかったこと、また、ボブ先生がいなくて若いバングラデシュ人医師と仕事をする時は、彼がイニシアチブをとってしまふことなどです。

一つ目めのことに関しては、私なりの理由があります。たとえば、患者さんの呼吸状態が悪くて、あえて大きな手術はしなかったこと、ある



▲外科手術を行う近藤宣教師

いは、胃の手術を糸や機材にかぎりのあるこの病院で、どういう風に、ボブ先生がやるのかまず見てみたかったので、自分ではしないでボブ先生^{リョウリョウ}をお願いしたということなどです。二つ目は、英語もベンガル語も流暢ではないうえに、病院のシステムにまだ慣れていないこと、そして私の性格も影響しての結果です。これらのことを説明しましたが、どこまで理解してもらえたかは、わかりません。事務長は言いました。「もしあなたが今やっている手術の20、30%しかできないのであれば、あなたはLAMBに必要な人じゃない」。そしてボブ先生なしで私がどこまでできるかトライアルをすることになりました。ひとりで外来や手術、病棟の仕事をする、私が経験の少ない患者さんが来ても、ボブ先生には相談してはいけないことになったのです。これは、なかなか厳しい状況に追い込まれました。でも反面「そうか私の好きなようにやっていいんだ」と思って、うれしくもあったのです。

トライアルがはじまって、早速やって来たのは、左下肢の皮膚の一部が壊死^{えし}におちいり、下肢全体が腫れている若い男性の患者さんです。どうも日本でもあまり見たことのない壊死性筋膜炎のようです。手術をすると、

皮膚の下から大量の膿が出てきて、皮膚が壊死に陥っていないところも皮下組織や筋肉が腐っていました。結局、5回の壊死組織除去の手術をし、最終的に左下肢後面の筋肉が解剖の教科書のようにすべてあらわになる状態となりました。感染が落ち着いてからは、右下肢から皮膚をとり、植皮の手術を5回しました。先週やった植皮がうまく生着すれば、手術は終了です。やせてしまっていた彼の顔がふっくらしてきました。最初、彼のまわりをたくさんのはえが飛んでいた時は、とても救えないのではないかと思います。でも主は、ちゃんと癒してくださったのです。

私の応援団！

こういうトライアル中にある私の状況を知ってか知らないでか、ある日、緊急の手術が終わった時、手術室の二人の男性現地スタッフが私に「私たちは、あなたが良い外科医だってこと知ってるよ」と言ってくれたのです。日本であっても決して手術の早い方ではない私が慣れない状況の中でもたもたしているのを、最初の頃、手術室のスタッフは「やれやれ」と思っていたと思います。その中でも彼ら二人はいつも温かい目で見てくれていました。そして、励ましに満ちたこのことばを主に感謝しました。

また、汎発性^{はんぱっせい}の腹膜炎で手術をし、その後も厳しい状況が続いている若い女性の付き添いをしているお姉さんに、何とかベンガル語で状況を説明しようとして、あきらめかけたところ、彼女が言いました。「もう少し頑張ってみて」。ここにも主は私の応援団を送ってくださったのです。

先日、事務長にまた呼ばれ、私の経験の少ないことに関しては、ボブ先生に相談しても良いことになりました。これで、トライアルが終わったわけではないでしょうが、少し安心できる状況になりました。

Prayer request

1. この地で働くための必要な能力が与えられますように。（限られた器材、設備の中で専門外の疾患に対応することを要求されます。）
2. ベンガル語と英語の上達のために。（患者さんに詳しく説明したり、福音を伝えたりするには、まだまだの状況です。）
3. 派遣教会の自治医大前キリスト教会のために。
4. 母と姉の救いのために。